

学 会 報 告

第40回東北農業経済学会秋田大会

久保 香代子

平成 16 年 9 月 2 日～3 日にかけて、秋田市において第 40 回東北農業経済学会秋田大会が開催された。

第 1 日目はシンポジウムが開催された。「大転換期における東北のコメと地域営農戦略」をテーマとして、新たな「食料・農業・農村基本計画」の策定に向けた検討内容を踏まえつつ、急速に進められているコメの流通再編、その中での東北のコメの位置づけ、農協改革の役割などを視野に入れながらの検討が行われた。工藤昭彦氏（東北大学）、中島寛爾氏（東北農業研究センター）の両座長の下、「21 世紀日本の農政改革の課題——食料・農業・農村基本計画の見直しの方向——」八木宏典氏（東京大学）、「流通再編と東北のコメ」小野雅之氏（山形大学）、「地域農業の変容と担い手像」佐藤了氏（秋田県立大学）、「農協の改革方向と役割」川村保氏（岩手大学）という四つの基調報告が行われ、淡路保氏（秋田県農協中央会）、高田元文氏（株）ヤマタネ、齋藤恭氏（岩手県農業研究センター）、芹田省一氏（秋田県農業法人協会）の各氏よりそれぞれの報告に対するコメントがなされた後、総合討論が行われた。

第 2 日目は、四つの会場にわかれ 40 課題の研究成果に関する個別報告が行われた。個別報告プログラムを一覧すると、今回のテーマとも関連した稲作経営に関する報告をはじめとして、農産物流通、食品のリスク管理、環境、諸外国の農業政策に関する報告等、非常に幅広い分野にわたる報告が行われていた。学会初体験（参加、報告ともに）の私としては、報告を聞きつつ雰囲気を楽しみ、緊張感

を高めつつ自らの報告を待っている状況であった。私は主に農産物流通等のテーマを中心に扱っている第 2 会場における報告を聴講したが、近年の食の安全に関する関心の高まりや地産地消の動きを反映してか、農産物直売施設に関する報告の多さが目を引くとともに、フロアの行政担当者と思われる方からの熱心な質問が印象に残った。

当研究所からは、佐藤孝一氏による「農産物直売所における購買行動——流通コストの観点から——」、渡部岳陽氏による「水田農業構造改革の推移と展望」、松久勉氏による「東北における最近の人口動向」、會田陽久氏による「韓国の農業と対日農産物貿易の動向」の報告が行われていた。私は、吉井邦恒氏とともに「コメのカドミウム基準値に関する規制インパクト分析——フレームワークと費用分析を中心に——」というタイトルで、現地調査に基づくコメのカドミウム汚染防止対策の費用分析を報告した。私達は「食料農業の危機管理システムの構築に関する研究」（危機管理プロジェクト）において「食品・農産物の安全性に関するリスクの経済分析」という課題に取り組んでおり、コメのカドミウムの基準値を題材として、規制インパクト分析の手法を利用した分析を行おうとしている。今回は、規制インパクト分析には至らず、費用分析の一部を報告するにとどまった。報告後、実証試験が行われているファイトレメディエーション（植物に土壌中のカドミウムを吸収させることで土壌浄化をする技術）に関するコメントをいくつかいただいたが、水稻のように湛水管理によるカドミウムの吸収抑制ができない畑作物等への対応などファイトレメディエーションに関する関心（期待）の高さを感じたところである。

自らの報告が終わってようやく平常心に戻ったようであったが、その時にはすでに学会も終了してしまった。このようにして私の学会初体験は終わったのだった。